特集「ユビキタス社会におけるコラボレーションサービス」の編集にあたって

垂 水 浩 幸[†] 櫨 山 淳 雄[††]

「ユビキタス」という言葉が社会に定着するようになってきたが，まだどちらかといえばネットワークの下位レイヤの通信機能やデバイスに対する社会の注目が主流のように思える．しかし，本来は単に「いつでもどこでも」計算機やネットワークが使えるということだけではなく，それにより情報サービスの本質が変化していくことが重要なはずである．本特集では，情報サービスの中でも，特に，複数のユーザによる協調作業や情報共有を対象としたコラボレーションサービスに注目した．

コラボレーションサービスの研究は会議支援システムを代表とするグループウェアから始まったが，想定環境はデスクトップコンピュータであるという時代が長く続いた．しかし最近になり，インフラの変化にともなって PDA や携帯電話端末を利用した研究が多くなってきた．これは単にシステムを利用する場所の制約がなくなったということにとどまらず，会社で利用するシステムは会社の仕事に使うといった，場所とコンテキストとのリンクがなくなったということも意味する．このような状況は技術的にも社会的にも新たな可能性を示唆し，一方で課題も突き付けている．同時に，ユビキタス環境を構築する要素技術である位置情報，電子タグ，アドホックネットワーク等の応用可能性も高めている．

ユビキタスコンピューティングの本来のテーマが情報サービスであるということの認識を改めて促し，ユビキタス社会におけるコラボレーションサービスに必要な技術とその応用について研究成果をまとめる良い時期が来ていると判断し，特集号を企画した．本特集は，ユビキタス社会におけるコラボレーションのための理論，基礎技術，支援システムならびにそれらの社会的インパクトの分析など，幅広い観点からまとめることを意図し，論文を募集した．

その結果，45 件という多数の論文投稿があった．特集号編集委員をメタレビューアとし，著者による修正期間を 1 カ月に短縮した以外は通常の論文誌の論文と同じ手続きで査読を行い，結果的に 17 件を採録した．採択率は 38%となった．採択率をあまり高くすることができなかったが，不採録になった論文の傾向を見ると新規性や解こうとしている問題（論文の主張点）についてクリアに表現されていないものや，評価実験や議論・考察の内容が論文の主張すべき点とずれているものが目立った．これらは第三者によるチェックや指導が事前に入っていれば改善できることであり，締切までに余裕を持って準備されることを投稿者の皆様にはお願いしたい．

採録された論文を次のように分類して目次を構成した．まず，ユビキタス関連技術を直接テーマとした論文としてアドホックネットワークと位置・空間情報に関する論文（計 6 件），次に，対話システムと対話分析に関する論文（計 6 件），最後にコミュニティと学習支援のアプリケーションに関する論文（計 5 件）である．対話支援，コミュニティ支援，学習支援はユーザのネットワークアクセスが活性化されるユビキタス社会において重要性を増していく技術領域である．

最後に，本特集号を企画する機会をいただいた論文誌編集委員会，優れた多数の論文を投稿していただいた方々，短期間の査読に協力していただいた査読者の皆様に感謝したい．本特集がユビキタスコンピューティングならびにグループウェアとネットワークサービス分野の研究活動の発展に寄与できることを期待している．

「ユビキタス社会におけるコラボレーションサービス」特集編集委員会

- 編集長（ゲストエディタ）
  垂水浩幸（香川大学/スペースタグ）
- 幹事
  櫨山淳雄（東京学芸大学）
- 編集委員（敬称略，五十音順）
  市村　哲（東京工科大学），井上智雄（筑波大学），梅木秀雄（東芝），岡田謙一（慶應義塾大学），緒方広明（徳島大学），小川剛史（大阪大学），葛岡英明（筑波大学），爰川知宏（NTT），関　良明（NTT），中西英之（京都大学），星　　徹（東京工科大学），宗森　純（和歌山大学），吉野　孝（和歌山大学）

† 香川大学/株式会社スペースタグ
†† 東京学芸大学